

講演会

日時：2013年3月17日（日）

場所：広島大学教育学部第1会議室

演題「ことばの力」

講師 西村 清巳

1、言語技術とコーチング

昨今、日本のスポーツ界は体罰問題で揺れ動いていますが、やっどここまで来たという感があります。日本スポーツ界の後進性が明るみに出たということではないでしょうか。

スポーツ技術の研究も、スポーツ指導の方法もトレーニング方法も研究しないで、ただ経験とカリスマ性で指導してきた結果ではないでしょうか。指導者の無能さを体罰でカバーしてきた結果ではないでしょうか。

指導者が説得力のある言葉を持つには、それなりの背景を持たなければなりません。

「成長過程にある選手たちに向かって語る言葉は、伝えるべき内容が明確に伝達されなければならない。“おまえに対する指導はこの目的のためだ”と毅然として語ることでできる理論と言葉を持つこと。ことばの力は、発する人の内面から出てくる自信・信念・経験に裏付けされていなければならない」

一言語技術が日本のサッカーを変えるー：田島幸三

「知識や技能・技術は人間にとって道具にしか過ぎない。問題はそれを使いこなす人間そのものを高め良くしていかなければ宝の持ち腐れとなる」 ー志のみ持参ー：上甲晃

スポーツ指導者が、子どもたちや選手を説得できる言語技術を持つこと、スポーツの目的や将来の目標を示すこと、日々のトレーニングの目標を示し、子どもたちや選手に「やる気を起こさせることば」で語りかけることが喫緊の課題ではないでしょうか。

言語技術と言っても嘶家の話術ではありません。スポーツ指導者に最も大切なことは、スポーツは何のためにするのかというスポーツの目的が明確になっていることでしょう。人間生活の中でスポーツの位置づけが明確になっていなければなりません。

スポーツを通して教育しているとすれば、子どもたちにどのような人間になってほしいと思っているのかという教育目標が大切です。成長期の子どもたちに関わるのですから、子供たちの将来について責任を負っているということを忘れてはなりません。

2、話す力、聞く力

日本人はとくに自己表現力が弱いといわれています。書くことはともかくとして、自分の考えを自分の言葉で表現することがきわめて弱いといわれています。家庭とか、サークルとか、仲間内なら話下手でもかまいません。フォーマルな場で、自分の言葉で自分の考えがしゃべれないようでは、相手に理解してもらえません。スポーツ選手のインタビューでも貧弱な受け答えにやきもきすることがあります。

このような表現力の弱い日本人を作ったのは、学校の授業スタイルによるところが大き

いと白洲次郎は息巻いています。

「日本人はだいたい話がつまらんですよ。これは中野好夫さんなんか大いに責任がある、教育が悪いんですな。あなたが大学で授業をして、それを学生が筆記して丸暗記で試験に行く、その通りに書くと100点、そんなバカなこと世の中にあるものですか、自分で考えるということを教えない、日本ぐらい自分でものを考えるやつが少ない国はありませんよ」

ー白洲次郎占領を背負った男ー：北康利

聞く力について日本一先生大村はまさんは次のようにいっています。

「全神経を動員して脳みそをフル回転させながら、体中が耳になったかのように集中して聞く、これが聞くということである。子どもが思わずそういう姿になるような優れた話、心を引く話を聞かせるのでなければ聞く耳は育てられない」

ー優劣のかなたにー：苅谷夏子

3、崖っぷちにたたされたときの言葉

1、<死なないで。あなたは私の夢だから>

ヤンキー先生義家弘介先生にかけた高校時代の恩師安達俊子先生の言葉

ー聞く力ー：阿川佐和子

2、<佐久間勉艇長の遺書> 1910(M43) 4.15 am 10:00

「小官の不注意により陸下の艇を沈め部下を殺す。誠に申し訳無し。されど艇員一同死に至るまで皆よくその職を守り、沈着に事を処せり。我れ等は国家のため職に斃れしと雖も唯々遺憾とする所は、天下の士はこれを誤り以て将来潜水艇の発展に打撃を与ふるに至らざるやを憂ふるにあり。希くは諸君益々勉励以て此の誤解なく将来潜水艇の発展研究に全力を盡くされん事を。さすれば我れ等一も遺憾とするところなし。・・・」

3、<齊藤実夫人の胆力>

二・二六事件のとき陸軍将校の前に立ちほだかり銃口をつかんで「私を殺しなさい、主人はお国が必要としています」負傷して倒れるまで銃口を離さなかった。

4、<中島明子：観光バスの屋根の上で一夜を明かした>

「自らをなげうって、無意識のうちに誰かのために行動できる人たちが、この世界にはごく当たり前に存在する。あの夜、私は64歳にしてそれを知ることができました」

5、<中村哲：ペシャワール会医師>

「飢えや渇きは薬では治せない」といって、乾ききった大地に全長24kmの用水路を6年がかりで作り上げた。

4、戦後の厳しい生活の中で

1、<神戸第三突堤のガキ大将>

「・・・中学生の中井勝は海が好きだった。神戸の第三突堤に出かけて日がな入船出船を眺めて飽かなかった。印象的だったのは外国船が入ってきて、外国船客が上から10円玉を投げたときのことです。船内で両替した金を突堤のコンクリートに投げるのですが、子どもたちが群がって拾おうとするのです。まだものない時代の貧乏な子どもたちです。そうしたらそのリーダーがいてね、絶対に拾うな！というんです。

ガキ大将が部下にさもしい行いを許さないんです。感動的だったですよ」
—2000年4月号文藝春秋—

2、〈お茶の水の靴磨き〉

昭和26年5月6日号週刊朝日に長谷川如是閑が「日本断じて亡びずの根拠」という小文を書く。お茶の水で長谷川如是閑が靴を磨いてくれと頼んだ靴磨きが「自分の靴墨は質が悪いから他の靴磨きに磨いてもらってくれ」と断られた。それでいいからと再度頼んでも「靴磨きがお客様の靴を台無しにしてはならない」といって磨かなかつたという。このことにいたく感激して書いた文章である。

5、人生からにじみ出た言葉

1、〈横綱双葉山〉

「けいこ場は本場所のごとく、本場所はけいこ場のごとく」
「ワレイマダモッケイタリエズ」1939年1月場所において安藝ノ海に敗れたとき、心の師である安岡正篤に打った電文。 モッケイ＝木鶏

2、〈巨人と大鵬幸吉〉

「巨人と一緒にされては困ります。私はたたき上げの人間です、人の5倍練習して横綱になりました」

3、〈松下幸之助〉

井植歳男(三洋電機創業者)が述懐した言葉「わしは、高等小学校を出たばかりに、小学校を出ていない兄貴(松下幸之助)に勝てんのだ」

4、〈下村脩〉

研究のためフライデーハーバーで85万匹のクラゲを捕らえる。
「僕は不器用。実験は10回のうち8回失敗する。でもうまくいくまでやるから人は『実験の名手』という。チャンスをもっている科学者はたくさんいる。努力を続けていたら目的を達成できたかもしれない」

5、〈Rachel Carson〉

「もしも私がすべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力を持っているとしたら世界中の子どもたちに生涯消えることのない{Sence of Wonder を授けて欲しい}と頼むでしょう」

6、良心の声

〈ぼくの方こそ〉

小学校5年生の男の子が、自転車で国道を横断中、車にはねられて10m宙を舞って地面にたたきつけられる。大腿骨骨折、脳挫傷、肋骨8本骨折の重傷を負った。集中治療室で3日間治療を受けたのち、一般病棟に移されたとき、加害者の大学生が恐る恐る近づき、震える声で「ごめんね」といったとき小学生が苦しい息の下で「ぼくの方こそ」といった。大学生は号泣した。あの一言で家族も、加害者を見る目が変わった。その場にいるみんなが救われた。

私の心にひびいたいくつかの言葉を紹介しましたが、それぞれの言葉には、人並み外れた苦労や生活の背景があります。ただ口先の話術ではない重みがあります。たぶん短い言

葉の紹介だけでは、相槌を打つことしかできないと思います。出典と歴史的背景を調べて、納得していただきたいと思います。と同時に自分自身の人間性を磨き、確乎たる人生観、世界観、教育観を背景にして、すばらしい日本の子どもたちを育てて欲しいと思います。ご静聴有り難うございました。

〈質疑応答〉

関さん：こんにちは。先ほど64期と聞きまして、びっくりしております。僕は16期なのです。長崎県から参りました。僕は「にしやん」と言うのですが、西村先生ですね。僕が大学4年の時に先生が来られまして、私より6つ上ということで、余計なことなのですが、さっき昼一緒に食べながら話していたのですが、なぜ僕が意見を言いたくなったかと言うと、実は西村先生に大学の時、失敗した先に、まあ読んでいてもそうなのですが、ぼくも色々な場面を見てきましたけど、ひどい時には小学生とかでもバチバチやるのですね。ぼくは審判やっていて、横から見てたりしてて耐えられなくてですね、いやあ小学校であんなことやるのかと。それで僕、西村先生に、失敗したときに、「関、失敗したらなあ、1000回2000回やらせろ。」それをずっと僕も、教員40年近くやりましたが、先生から言われたその言葉持ち続けていたのですね。で幸い、僕は中学・高校・大学・クラブずっとやりましたが、叩く方ばかりだったのでですけどそれで仕上げが西村先生だったんですけど、最近の柔道とかバスケの記事読んで、やっぱりここにも書いてありますけれども、叩かれて育った生徒は叩かないと聞かないのですよね。私もかなり、まあ、せいぜい県でベスト4ぐらいしか育てなかったのですが、やはり本当に中学時代叩かれて育った生徒は叩かないと聞かないのですね、だからえっと思って粘り強くいろいろやったりしたのですが、やっぱり僕は先生の基本的な姿勢を少し学ばせていただき良かったと思っています。僕ももうすぐ70近いのですが、後輩のみんなも、体罰がいかに心を傷つけるか、で、指導者が粘り強く繰り返し、さっき言いましたようにミスしても、それを繰り返しやらせる、そして「自分で覚えさせることの大事さ」を僕は本当に学生時代学びました。今でも「にしやん」と言って電話して色々、長いこと付き合ってもらっているのですが是非後輩もね、50歳ぐらい違うのですかね、子や孫くらい、離れてるかもしれないですが広大な伝統を守って、「にしやん」の基本的な考え方を受け継いでもらいたいなと思ってちょっと意見言わせてもらいました、どうも。

釜山さん：27期の釜山です。私は読書があんまり好きでなくて、これからちょっと時間が取れるようになれば読みたいと思うのですが、先生、いつも手帳みたいな持っておられたんですよね？これだけの言葉とかかなりだと思うのですが、いつもなんかこう読まれていると思うと書きよったですよ。たぶんこれらの言葉も全部それが残っていると思うのですが、やっぱり感想文とかあらすじだとかなかなか書けないのですが、先生がこれだけ本を読んで、これだけの言葉を自分のものにされたのは先生のすごさと思うのですが、今から私たちが読書をしていくときに長く続く秘訣というか、先生がされたものを教えていただければと思います。

西村先生：そうですね、わたしは今言われたこれがノートなのですけれども、これ今18と書いているでしょ。このサイズのノートが18冊目ですよ。大学4年の時から始めてですよ。だから50年60年かけてやっと18冊ですよ。でもこれは開けてみるとやめられない宝物ですね。だから、必ず読書した後は書いておく必要がありますが、ただどうしようもない本に当たることもあるのですよ。いつも心に響く本を探そうと思ったら、基本的には日曜日ごとに新聞に書評が出るでしょ、新しい本の。その中を全部見て面白そうなものを選ぶというのが、1つ当たり外れがないと思うのですね。その他ではその人、その人間を好きになってその人の本を追っかけるというのが多いと思います。なかなかね、全て当たりの本というのはありませんよ。ああこれおもしろく無かったという本の方が多いかもしれません。でもあの書評から選べばほとんど間違いはないと思います。

宮本先生：22期の宮本です。再任用で還暦を迎えて1年をもうすぐで過ぎます。再任用、還暦を過ぎて、さあリセットの人生をどうするかという時に、まず頼まれごとは断るまい、まあこれは半分ほどですが、断る時もある。これは礼に甘んじてですが。まあ、ということで、同窓会会長も引き受けたわけですけども、その時にもう一つ、世のため人のために尽くすというのも大きな目標に掲げたのですが、この1年やってみて、わりに考える時間があると自分の悪いところやら悪い行いや言葉やら、過去のミスがいっぱい思い浮かんでくるわけですね。でも今思うに、その世のため人の為に尽くすというその目標に掲げるとするならば、やっぱり今先生が言ったようにその子に将来どうなってほしいかという思いで教育にあたるということのような理念とかビジョンとか、自分の中に確固たるものを持っていると、さらに2年目の世のため人の為に尽くす1日1日の歩みができるんじゃないかと思っております。僕はわりに楽天的です。やろうと思ったらやれる。どんな困難なこともやろうと思ったらやれる。そんな信念の元、先生にはいろんな行事を過去助けていただきありがとうございます。そういう理念のようなもの、覚悟のようなもの今の僕を含めて先生の後輩たちに、こういう言葉、こういう理念、こういう日々をこういう気持ちで、こういう覚悟で、あるいは毎日こういう言葉を念じて生きるという、そういう大きなものを是非言っていたきたい。お願いします。

西村先生：無理な注文じゃね。今、相手にしとる小学生に何のためにこれをやるとののだといつも言うのですよ。それで私が言うのは立派な社会人になるために今これをやっている、竹削っている、木を植えている、畑仕事をしていると。それは君らが立派な社会人になるためにやっているのだよと言うのですね。だから、それが私たち自身の目標にもなるのじゃないでしょうかね。立派な社会人になる。その中身は千差万別ですよ。でもみんなが立派な社会人なるという思いで死ぬるまで頑張ってもらわないけんと思います。それで子どもに今毎回会う度にお前ら何のためにやるとののかと聞いたらみんな口をそろえて「立派な社会人になるためです」と言いますよ。「そうか、その遊びと本気のけじめのつかんで立派な社会人になれるか」と今度は問いただすわけですね。それがみんなの謳い文句になって、それに恥じない活動にしようやということで1本筋の通っているのですね、私が面倒みている子どもたちは。やっぱり皆さんは社会のエリートにならないといけんよ。

エリートというのは素晴らしいリーダーとか、ただ能力が素晴らしいだけじゃなくて、みんなの見本になる、みんなの嫌がることを率先してやれる、そういう人がエリートですよ。みんながしたくないことを率先して出来る、そういうことだろうと思います。社会に自分の持っている力をフルに発揮してサービスできる、これがエリートだろうと思います。エリートというのは優秀な何かを持っているだけじゃだめです。人の見本にならなくちゃね。自分は偉いのだぞというのはエリートでも何でもないと思います。だから一番つまらんのは政治家が震災の現場を見に行つて、スコップで土をよう掘らんからつまらんですよ。スーツを着て革靴を履いて現場を歩くようなセンスではだめです。エリートにはなりません。やっぱり行くときには作業服を着て長靴を履いて行かなきゃ。それで初めて人が認めるエリートです。政治家に皆さん言うてやってください。

奥野（63期）：63期の奥野です。冒頭のJビレッジのお話でもコミュニケーションをとる大切さのお話があったと思うのですが、双方向でのコミュニケーションを取ろうと思ったら自分から発信、主張する力が必要だと思うのですが、日本では古来から遠慮や沈黙こそが素晴らしいというような考えが美德とされている部分があると思うのですが、そのような部分も変わっていくべき、変えていくべきだとお考えでしょうか？

西村先生：いえ、それは美德は美德で残すべきだと思います。その自分の考えを述べなしゃいけないという対外的な交渉の場、利害関係を異にする相手に対して自分の考えを述べる、そういうところにこそ自分の考えを持って自分の言葉でしゃべる力が重要であって、こういう仲間内ではその必要はないですね。日本人が私は情けないと思うのが、オリンピックで優勝した選手にインタビューしたら、「うれしいです。」あんまり言う言葉がないでしょう。いつもおんなじ言葉ばかりでしょう。あそこで一つ今日の自分の技術の良さ悪さ自分の心構えそういうものを一言いえば参考にもなります。「うれしいです、めっちゃうれしいです。」そらだめですよ。そんなこと言っていたらね。そういう時に自分の言葉で自分のやったことが評価分析できる力、そういうものをトップの人は持つべきだと思いますね。言葉が一番貧弱なのは日本のスポーツマンですよ。

奥野（63期）：西村先生ありがとうございました。